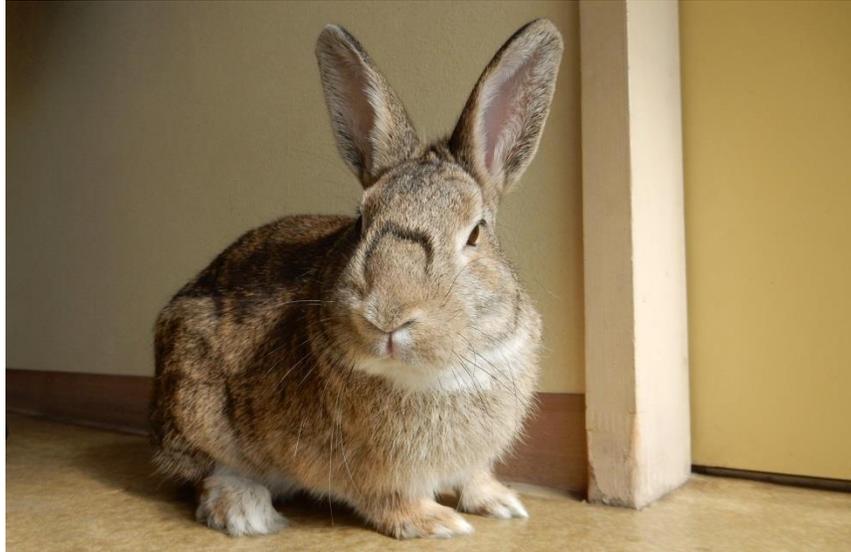


新しい学期がスタートしました。動物飼育も春から新しいスタートになり、新しい気持ちで、より良く変化を遂げていきましょう



公益社団法人 栃木県獣医師会からのメッセージ

栃木県獣医師会は、一昨年、社団法人から公益社団法人に移行しました。
公益化にとめない、“社会に貢献する意志と意識”を明確に持ち、
“社会のための獣医師会”として、よりよく変化します。
ご質問、ご要望に全力でお応えすることをお約束します。



栃木県獣医師会ホームページ：<http://www.tochigi-vet.or.jp/>



小山市の小学校で作っている乾燥牧草（クローバー）

工夫：

小学校での動物飼育は、色々なコストを必要としますね。人的コスト、精神的コストや金銭的コストが代表的ですが、そのコストは、工夫次第で軽減できるものです。

チモシーの栽培：

チモシーを栽培してみたいかでしょう。植物の栽培は、生活科の授業としての側面を持ちますし、小学校での動物飼育の意味合いも、さらに広がるものと思います。

牧草として利用されているチモシーは、ウサギの主食として大切な存在です。実は、ラビットフードとして市販されている物は、チモシーやアルファルファといった牧草を乾燥させ、ペレット状に押し固めたものです。ウサギは十分な牧草があれば、それだけでも生活できます。

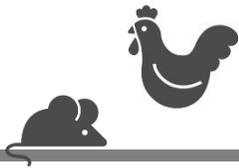
ウサギの生態も、本来は、長い草を前歯で小さく切り刻みながら食べるような生態です。自然界に「ラビットフード」は存在しないので、草が主食であることはご理解いただけることでしょう。

ウサギの歯の構造も、長く、硬い草を前歯で小さく切り刻み、それを奥歯ですりつぶして食べるような構造になっています。本来のエサの食べ方に合った飼育をしてあげないと、前歯や奥歯がうまく機能なくなり、歯に関する病気になることが多いです。

ご希望の小学校には、「チモシーの種」を無料でお分けします。ご希望の際は、獣医師会までご連絡ください。



チモシーの種



根拠に基づく動物飼育

モルモット

長所：

- ウサギより小さくて、場所を取らない（室内飼育に適している）
- 毛の模様の特徴があるので識別しやすい
- 比較的温厚な性格をしている
- 寿命が短すぎず、長すぎない（長くて8年程）

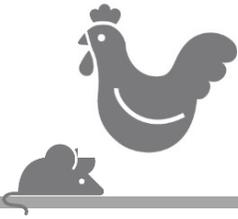
短所：

- オス同士でケンカが多いので、群れでの飼育に向かない
- 環境変化に弱い傾向がある
- 室外飼育に向かない
- 種類によっては、長毛や巻き毛の種類があり、毛の手入れが必要
- トイレを決まった場所でない
- 鳴き声が気になることがある（ウサギは鳴きませんが、モルモットは鳴きます）



短所を克服する：

- 「オス同士でケンカが多い」、「環境変化に弱い傾向がある」、「鳴き声が気になる」
⇒オスとメスの「つがい」で飼育する。（この場合、オスは去勢手術を実施しておく）
⇒オスは去勢手術を実施する
このような対策をとることで、オスとしての攻撃性が軽減します。また、「つがい」で飼育することで安心感が生まれ、無駄に鳴くことや、環境の変化にもある程度対応できることが期待できます。
- 長毛や巻き毛の種類があり、毛の手入れが必要
⇒学校飼育の場合、長毛や巻き毛の種類を選択しない方が好ましいでしょう
- トイレを決まった場所でない
⇒絶えず清潔に保っていると、決まった場所でするようになりますので、こまめに敷物を交換してあげると良いでしょう



チモシーの種を差し上げます

今年の三月、（一般社団法人）日本小動物獣医師会の学会における、学校飼育動物で発表された資料です。
チモシー栽培の際のご参考にしてください。

チモシーを栽培してみませんか



チモシー

- ・イネ科の牧草で和名をオオアワガエリと言い、アメリカで牧草化された温帯の冷涼地の牧草で比較的寒さの強く、暑さに弱いといわれています。
- ・多年草のチモシーは1度種をまけば、数年に渡って収穫することが可能です。
- ・プランターで簡単に栽培でき、寒さに強い品種なので、気をつければ楽に冬越しができ、室内栽培などで工夫すれば、真冬に収穫することも出来ます。
- ・詳しい栽培法はネットで「チモシーの栽培」で検索して下さい。



注意）数量には限りがありますので、お早目にご連絡ください。

配布は、先着順とさせていただきます、なくなり次第終了させていただきますので、ご了承ください。